

CONTENTS

- 2 経営支援事例発表中部ブロック大会
BCP・事業継続力強化計画 / 小規模企業共済
- 3 経営に効くビジネスサプリ
- 4 未来を応援 / 税を考える週間

◆元氣企業紹介◆

女将の厨房より

中山道の贈り物

しょうじゅあん
照寿庵

当店は、風光明媚な恵那山の麓、中津川市街が一望できる高台で母が「懷石料亭照寿庵」を経営していましたが、母の高齢化にともない廃業を検討していたところ、多くのお客様から継続を求める声をいただいたことで、ここ中津川市蛭川でテイクアウトの形態で事業を継続し、母の味を残し、母が築き上げた中山道の贈り物シリーズを販売していくことを決意しました。

私は、照寿庵にて調理補助や仲居業務を行っていましたが、創業に際しての経営の知識を取得するため、商工会で開催された創業セミナーに参加し、事業計画を策定したこと

で、開業にかかる費用に市の創業補助金を活用することができました。

中山道の贈り物シリーズについて

漬物、菓子、総菜、創作弁当、寿司など通年商品は25種類以上、季節商品は10種類程度を取り扱っています。母は医食同源をモットーに無添加・無着色にこだわって、選び抜いた食材を使用し、商品の製造をしていました。私もこの考えを基に日々商品の製造をしており、お客様から好評をいただいています。



▲中山道の贈り物シリーズ

にきり醤油やにきりポン酢は大好

評で、にきり漬けニンニクを使用したガーリックライスなども人気商品です。

※にきり醤油とは醤油を鍋などで沸かして角を取った(ツンとした感じをなくした)も

ので、日本酒やみりんなどを入れて味をまろやかに仕上げています。味の決め手は血合い抜きのかき揚げです。

現在と今後について

現在はテイクアウト(店舗外にオープンテラスを設置し、川のせせらぎを楽しみながら飲食していただけます)を行っています。現在は店内飲食の復活も視野にいられています。中津川市蛭川には、ストーンミュージアム博石館(はくせきかん)や、恵那峡ワンダーランドなどがあり一日楽しめますので、お越しの際は是非当店にもお立ち寄りください。



▲創作弁当

(所属 中津川北商工会)

◆照寿庵◆

清水 真千子

中津川市蛭川1724
0573-5918686

10時~18時
毎週火曜日



▲HP



▲LINE



経営支援事例発表 中部ブロック大会にて

丹羽悠経営指導員(中津川北)が最優秀賞に！

商工連中部ブロック協議会並びに中部ブロック商工会職員協議会の主催により、十月二日に経営支援事例発表中部ブロック大会が三重県四日市市のプラトンホテル四日市にて開催されました。

この大会は、商工会職員が持つ経営支援ノウハウ・経験の共有化、経営指導員等のモチベーションの向上及び商工会の事業者支援実績を内外にアピールすること等を目的に開催しているものです。

本大会に岐阜県代表として中津川北商工会 丹羽悠経営指導員が出場、「三代目と奔走した新規事業立ち上げ〜小さな和菓子屋が百人の行列をつくる大人気店に〜」と題し、和菓子の製造販売を行う会員事業所の三代目が、地元地域の高齢化による顧客減少、さらに新型コロナウイルスの影響で経営状況が厳しくなった自社の立て直しに向け取り組んだ新規事業立ち上げに対し、三代目の思いを尊重し、さ



丹羽経営指導員

らに、その強みを最大限に活かした支援について発表、見事に最優秀賞(中部経済産業局長表彰)に選ばれました。

また、同日に開催された研修会では、全国商工会連合会 地域経済再生本部長の宮窪大作氏が講師となり、



宮窪大作本部長

「商工会地域の現状と今後の商工会」をテーマに講演を行いました。講演では、宮窪氏が加入していた地元商工会青年部で、ニートである部員の子供が、仲間の青年部員の事業所での仕事体験を通じて社会復帰を果たした実体験を基に、宮窪氏が発案した試みについて発表されました。この試みは、ニートや引きこもりの若年層を地元企業での就労体験を通じて仕事に導き、小規模企業の人材不足対策にも繋げようというもので、地元のテレビ番組でも紹介されるなど、非常に興味深い内容でした。

なお、丹羽経営指導員は中部ブロック代表として、十二月五日に鳥取県で開催されます全国大会に出場します。

丹羽経営指導員の全国大会での健闘をお祈りいたします。

事業継続リスクに備える「BCP・事業継続力強化計画」を策定しましょう！

近年、大規模な自然災害が全国で頻発しています。加えて、新型コロナウイルス感染症などの自然災害以外のリスクも顕在化しています。こうした自然災害や感染症拡大の影響は、経営だけでなく、サプライチェーン全体にも大きな影響を及ぼす恐れがあります。災害が発生すると、ヒト・モノ・カネ・情報の4大経営資源が損なわれることが想定され、事業の復旧にはかなりの時間を要します。事業の復旧に時間がかかっても、取引先は復旧を待ってくれず、代替先を探してしまうため、事業停止期間中のビジネスチャンスを失うことにもなります。そのため、いかに事前に対策を立てておくかが重要となります。商工会では対策を立てて、計画書にまとめることのお手伝いをしています。「これまで大丈夫だったから、今後も大丈夫」などとは言っていないかもしれません。被害を受けてから、「困った」「どうしよう...」となるのではなく、今から「もしも」に備えて、防災・災害に取り組むことが大切です。明日起きるかもしれない自然災害や感染症に対する備えを、商工会と一緒に考えてみませんか？

最寄りの商工会へご相談ください

退職金の準備を中小機構がお手伝いします

安心 安全 国がつくった

小規模企業共済

こんな悩みにお応えします

年金に不安を感じたら

無理のない月額で積立をしたい

制度の特長

1 経営者のための
退職金制度

2 掛金は
全額所得控除

3 受取時も
税制メリット

他にもこんな特徴があります。

- ・月々の掛金は1,000円から
- ・契約者貸し付けの利用が可能
- ・共済金の受給権は差押禁止

共済相談室 TEL. 050-5541-7171 【受付時間】平日 9:00~17:00

令和5年9月からオンライン手続きスタート

ご要望の多い一部の手続きについてオンライン手続きが出来ます。新規加入、掛金払込証明書の電子交付、掛金月額の増額減額、氏名・住所等の変更 など

小規模企業共済制度の詳細内容は2次元コード又はホームページからご確認ください。

小規模共済

検索



2023.9

Be a Great Small.
中小機構

経営に効く ビジネスサブリ

羽根田先生には、全12回シリーズで会員事業者様のための経営に役立つ情報をトピックスとして、連載していただきます。

第7回

地域に根差した第三者承継

公的支援による第三者承継支援・創業支援
引継ぎ支援センター・あつぎDB・公庫マッチング事業

羽根田マネジメントオフィス株式会社

羽根田中小企業診断士事務所・行政書士羽根田事務所

中小企業診断士・行政書士 羽根田 隆弘



今回も前回に続き、事業承継について取り上げます。

事業自体に魅力や収益性はあっても、様々な理由で親族や従業員が事業を承継しないケースがあります。そのような場合、「身近に後継者がいない」からと、事業承継を諦めて問題を先送りにしても、いつか必ず限界がきます。

そこで雇用の維持や取引先への供給責任を果たすために、親族や従業員以外の第三者へ、会社や事業を譲り渡すことも選択肢の一つとして検討してみてはいかがでしょうか。

第三者へ会社や事業を譲り渡すというと、大企業のM&Aを想像しがちです。しかし現在、個人事業主や中小・零細企業を対象とした事業承継型のM&Aは年々増加しています。直近のデータでは今回紹介する事業承継・引継ぎ支援センターでの成約件数が年間 2,023 件（令和5年度）となりました。

また、M&Aと聞くと、相手探しや交渉のために、支援業者に高額な手数料を支払う必要があると思われるかもしれません。しかし、以下のような公的な支援があり、いずれも無料で利用できます。当然、秘密情報等は守られますので安心してご相談いただけます。

岐阜県商工会連合会

「あつぎデータベース事業」

岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター

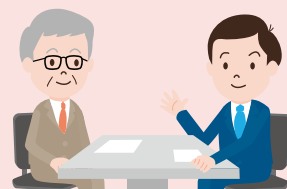
「後継者人材バンク」、「第三者承継支援事業」

日本政策金融公庫

「マッチング事業」

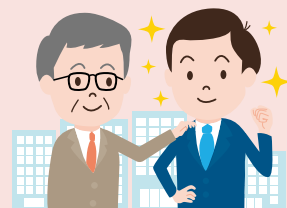
ここで、公的な支援制度を利用した事業承継及び創業の事例を紹介します。

ある飲食店オーナーが諸事情で廃業を検討しており、まだ使える店舗をどうするか悩んでいました。そのような中、事業承継・引継ぎ支援センターの第三者承継支援事業の存在を知り、登録を行いました。



一方で、同じタイミングで、飲食店の創業希望者が、不動産業者等を介して居抜き店舗を探していましたが、良い候補が見つからずに悩んでいました。そのような中、商工会連合会のあと継ぎデータベース事業の存在を知り、登録を行いました。

ここで早速、上記情報を得た支援機関のコーディネーターが連携して動き、それぞれの情報を持ち寄ってマッチング先を探しました。すると、譲渡側、譲受側双方の希望内容に合致する点が多く、すぐに合意



に至り、店舗を無駄にすることなく、創業希望者の新規開業に役立てることができました。

このように、民間の仲介会社にはできない地域に密着したサポートができるのも、公的支援の魅力です。第三者承継も選択肢の一つとしてお考えの場合、まずは公的支援の窓口である身近な商工会の指導員にご相談ください。

未来を応援

金蝶園分店



■ 3代続く和菓子店

「金蝶園分店」は、今回支援を行った3代目伊藤章宏さんの祖父が、1960年に大垣市にある和菓子店「金蝶園」からのれん分けにより創業、養老町高田で和菓子の製造販売を行っています。現在は、章宏さんの父親である現代表(2代目)と章宏さんが一緒に店を切り盛りしており、季節の和菓子が味わえる店として、「草餅」・「金蝶園饅頭」の看板商品と、夏は「かき氷」、冬は「大判焼き」等の季節限定商品を販売しています。

■ 伝統の味を守りながら新たな商品開発に

初代と2代目は、全国菓子博覧会等で受賞歴を持つ和菓子職人で、現在も職人の卓越した技術を引き継ぎ、昔ながらの伝統を守りながら地元のお客様に愛され続ける変わらぬ味を提供しています。また、開店当時から、原材料にこだわり保存料・添加物を一切使用しない和菓子を作り続けています。章宏さんは、イタリア料理店のシェフとしての経験を活かして「あんこ&クリームチーズ」の大判焼きや、パイナップル大福など新商品を開発、和菓子では珍しい組み合わせが話題を呼んでいます。特に、夏季限定のかき氷は「モンブラン氷」や「梨シャイン」・「天空のほうじ茶」などメディアに取り上げられ、養老公園や養老温泉に来られた町外のお客様にも好評で、今年の夏は1,000食以上を売り上げました。

■ 「テイクアウトのみ」という販売スタイルを変える



イートインスペース

話題性のある商品がヒットする一方で当店には飲食できるスペースがなく、「かき氷を座って食べたい」、「買った和菓子をここで食べたい」等多くの声を聞いた章宏さん

3代目の挑戦、イートイン販売で新規顧客獲得を目指す！

から、イートインスペースの確保に向けた店内改装に係る資金調達の相談が商工会にありました。そこで原油高・物価高騰対策事業者応援補助金を提案、申請サポートを実施しました。そして無事に採択を受け、令和5年12月8日に多くのお客様の声をカタチにしたイートインスペースのあるお店でリニューアルオープンし店内で飲食できるようになりました。その際、専門家派遣制度も活用し、専門家による店内レイアウトや商品陳列について提案を受け、お客様が落ち着いて商品が選べ、くつろげる空間の提供が出来ました。



商品陳列

■ さらなる夢の実現に向けて

章宏さんは、事業計画の策定、実行によって、将来に対するビジョンが明確になり、新たな取組みも始めています。和菓子の固定概念にとらわれず、国産の小麦や無農薬、オーガニックなど体に優しい素材にも目を向けた商品開発やマルシェや販売会にも参加しながら販路開拓のチャンスをつかんでいきたいと考えています。

商工会は、販路拡大や新たなサービス展開などの相談に対し、様々な支援メニューを提案、伴走支援によりサポートしていきます。(養老町商工会)



左から3代目、2代目、専従者、スタッフ

金蝶園分店

■ 養老町高田91-2
☎ 0584-32-0177



Instagram



税務署からのお知らせ

税を考える週間

テーマ「これからの社会に向かって」

国税庁(税務署)では、国民の皆様に租税の意義や役割、税務行政に対する知識と理解を深めていただくため、毎年11月11日から17日までの1週間を「税を考える週間」として、国税庁ホームページ(<https://www.nta.go.jp>)等で様々な情報を提供しています。ぜひご覧ください。

岐阜北税務署 ☎ 058-262-6131



税を考える週間

検索

国税庁
ホームページ